

エゾマツ



No. 37

1996.6.10

北海道ボランティアレンジャー協議会

目 次

1. 巻頭言 芽吹きに輝く森を眺めて 会長 大友 健 (1)
2. 山へのあこがれ (2)
3. 会員の声 (3)
4. キーワード (6)
5. もんものの味 小林 文男 (7)
6. 春の森の観察会 武田 洋子 (8)
7. 8年度の登山観察会の予定 浅野 正嗣 (9)
8. ドングリと恐竜 川端 功治 (11)
9. 本の紹介 (15)
10. 第11回定期総会 (16)
11. 平成8年度 役員名簿 (26)
12. 観察会研修会情報 (28)
13. 編集後記 (33)

芽吹きに輝く森を眺めて

会長 大友 健

山々にも芽吹きが訪れ、近くの山並みには、春の紅葉が始まったこのごろである。例年なら、真っ先に山肌を彩るキタコブシの純白が、この時期に見られず残念である。気候の不順とか、花芽のつき具合とか、色々影響もあるのだろう。シウリザクラの葉色のうす桃色、カツラのあづき色の雄花など、雨の翌日などには森は小鳥のさえずりを交え、一気に生き返ったように、賛歌を奏で聞かせてくれるのである。

季節の巡りを経て、緑に移行しつつ行く今を「春の紅葉」という自然人も多いほど、木々それぞれに鮮やかな色づきを見せてくれる。日を追いながらイタヤカエデのみずみずしい黄色、ヤマモミジの紅色の花など、遠くからでもそれと解るほど、輝いて目にしみるようである。

森を構成する樹木の花などは、地味な色合いのものが多くのであるが、この時期の山々は秋の「紅葉」にも劣らない美しさを、まぶしいくらいに輝きながら見せてくれる。芽吹きの色と、その機能との関係はよく解明されていないようだが、ワックスが蓄積した芽吹きは光を反射し、クロロフィルの緑色、黄色やオレンジ色のカロチノイド、赤や紫のアントシアニンなどの、色素の蓄積量の違いにより、多種多様な芽吹きの色が生ずると、教えを以前に受けた事を思い出しながら見続けるのである。

陽春の風薫る季節に、誘はれるように林床のあちこちに、顔を出し始める草花に再会したく森の小道に足を踏み入れ、何時もの場所に、芽だし始めた草花との再会は、これまた素晴らしい感動に浸るのである。

私達は、季節の巡りを追いかけるように、森の中を歩き回り自然の営みを、いろいろなものから関連づけ、ストーリーとして人々に語りかけ、感動として受けていただくため木を見て森を知り、山の花を見て森を語り続けよう。

山へのあこがれ

山を見ると心がなごみます。日本の国では、山がまったく見えないという所はめずらしいでしょう。どこへいっても、近くにまた遠くに私たちの視野に入ってきます。ですから、日本人が自然の風景を思うとき、その心の中にはいつも山の姿が浮かんでくるのではないのでしょうか。

人間は天界へのあこがれの気持ちを持っているといいます。ですから、少しでも高い所へ登ろうとする本能があるのでしょうか。高い所へ登れば登るほど眺望がひらけ、上から見下ろす風景は時には優越感さえも生みます。

登山は、日常の体験とは違った別世界へ踏み込むことになり、俗世界を離れた気分になります。昔から多くの人たちが、山へ入って修行し自分の欲望を断ち切り悟りを開き、宗教的境地を得ました。山は人の心を高めていく不思議な所なのでしょう。山を愛すること、それは自然と一体となり、自然と融けあう純粋な態度が求められるものだと思うのです。

4月以降の活動

- 4月13日(土) ・平成8年度 定期総会 於：かでの2・7 (13:00~)
- 4月18日(木) ・森林公園事務所主催 4月の森の観察会 協力参加
- 5月10日(金) ・役員会 於：かでの2・7
- 5月14日(火) ・記念事業実行委員会 於：かでの2・7
- 5月19日(日) ・森林公園事務所主催 春の森の観察会 協力参加
大沢口 9:30~14:00 (下見 5月12日)
- 6月 2日(日) ・野幌自然観察会 9:30~12:00
(下見 5月26日)
- 6月 7日(金) ・記念事業実行委員会 於：かでの2・7
- 6月10日(月) ・会報誌「エゾマツ」37号発行

会員の

声

ヤドリギ

函館市 中村 忠夫

観察会等で参加者に少しでも興味と感動を伝える事が出来ないだろうかと思いだしたのが「ヤドリギ」の寄生した樹幹、そこだけが異常に成長して膨らんでいて、海の「ホヤ」に姿が似ているので「ホヤ」という。

まず「カラスの巣」の写真を見せると子供達は喜んで答えてくれます。ではこれは为什么呢、「カラスの巣」みたいだけど10個も着いている。ではもう少し近くの写真を見ましょう。さぁ、黄色い実が沢山なっている。これはヤドリギでした。

ではヤドリギに愛された木の中はどのようになって居るか見たことがありますか。残念ながら今までに一人もいませんでした。

ヤドリギの根は無数に螺旋状に芯にまで入って養分を吸収しているから、初めて見たと興味を示してくれるのが嬉しく、ボランティア・レンジャーとして此からも身近な自然を伝えて行きたいと想っています。

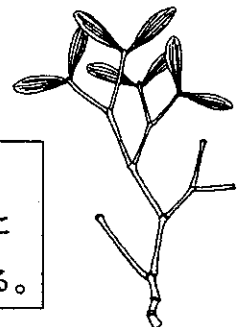
小父さん、「カラスの巣」ってなに、僕見たことないの、僕何処から来たの、東京から、小父さん東京の何処へ行ったら見られるの……………

今度は、ニュージーランド産の「キウイフルーツ」と「コクワ」は同じ味がする事を教えてあげたい。

「カラスの巣」ってなに、あの少年を忘れる事が出来ない。

ヤドリギ (学名 *Viscum album*)

一名ホヤ、トビスタとも呼ばれる。トビスタはこの木をツタにたとえ、また木から木に移って生えるからであると言われている。



札幌市 星 野 忠

私は、会社の勤務事情によりボランティア活動にここ数年間、参加することができず会報誌「エゾマツ」により会の行事及び皆様のご活躍を知ることができます。

近年、人と動植物の関わり合い、また、自然保護のありかた等が論じられているが最近、都市の土地開発行為についても地域住民から環境保全が問題提起されている。

これら貴重な森林等を有効に活用し、調和のとれた豊かな住生活と快適な都市環境の実現ができないものかと思っております。

アリとカタクリの関係

札幌市 猪 師 勉

カタクリの群落の美しさだけを人は感動します。実は、この群落をつくり出しているのは、ムネアカオオアリがカタクリの種子を自分の巣に持ち帰り、甘いところを食べ、又巣から持ち出して、種子がこまないように植えるのでカタクリは平均に植えたように群落を作り出していきます。

人間が見えないところでカタクリとアリの共存共栄の関係が成り立っています。

来年カタクリを見にいったら是非忘れてならないアリのことを思い出してほしいものです。エンレイ草も同様です。

白老町 森 永 浩

今年の本道は気温も低く、春の訪れも遅れているようですが、果たしてカッコウの初啼はいつ頃か、心待ちにしていたのですが、昨年同様5月22日でした。

皆さんの地域は何日でしたか？。続いて、筒鳥や、黒ツグミの鳴き声を聞くと初夏を感じさせてくれます。

若葉の出揃った木樹の下には、日陰スマレ、マイズル草、雪笹が、可憐な花を咲かせ心をなごませてくれます。

このような小さな自然をいつまでも見守ってやりたいと思いました。

砂川市 藤永友治

砂川にある道立子どもの国のすぐ近くに住んでいます。一帯は石山を中心とする自然公園で、250余種の植物・多数の小動物と、自然豊かな所です。

退職してから5年目に入りましたが、2年間の再就職、その後の旅行続きで、いくつかの講習会に出るのが精一杯でした。

今年からはボラ連の行事にも顔を出したいと考えています。

当地は、道央自動車道の砂川石山SAのそばで、札幌・旭川間の高速バス停もありますので、これからの季節、一度お出かけください。

5月の風景

札幌市西区 玉田 紀美子

ウグイスが啼いています。カワラヒワがキリキリ鳴きながら枝から枝へとび移っていきます。ひよどりがけたたましい声で鳴き交わしながら、頭上を通過していきました。遠くの山は残山が多く黒と白のすみ絵模様。

5月の山は若草色とぼうっとしたサーモンピンクとオレンジ色、所々にエゾヤマ桜のピンク、ヤマが笑っています。雪どけの川は流れが早く、岩にぶつかり、そり上りあわ立つ様は胸が早鳴ります。岸辺には雪溪が残りこのまわりの空気を冷やしています。帽子に何か落ちました。黄緑色の花です。今迄若葉が繁っているとばかり思っていたのがイタヤカエデの満開の花でした。足元はお花畑です。キクザキイチゲの白、カタクリのピンク、エゾエンゴサクの水色。キクザキイチゲの花びらのようなガク片を数えてみました。13枚あります。どの花も大ぶりです。夏草のオオウバユリ、バイケイ草、オオハナウドのやわらかい葉も見えます。枯葉茎の中にスクスクしたものが見えます。身を固くしたギョウジャニンニクです。「今日の夕食の献立決まった。焼肉にしよう。」と現実に戻る私でした。

5月15日、曇り、低温風有り、朝里川のほとりより。

キーワード



ラムサール条約

湿地保全やワイズユーズ（賢明な利用）について、道民の関心を呼んだ釧路でのラムサール条約締約国会議から三年が経過しましたが、今年の春3月オーストラリアのブリスベーンで第6回会議が開催されました。この会議には、121ヵ国から政府代表やNGO（非政府組織）関係者ら約千人があつまりました。

25年前にスタートした条約ですが、今会議では、水鳥だけでは貴重な湿原は守れないとの認識に立ち、登録湿地を選ぶ際の基準に魚類を加えた事が、会議の成果となりました。対象魚類には、①地域の固有種 ②生息している水鳥のエサ ③食物連鎖を構成していたり、漁業の対象となっているものの三つになっています。北海道ではサケ、シシャモ、イトウ、カキ等が該当します。

ところで、このラムサール条約とは、国際的に重要な水鳥の生息地である湿原を各国が協力して保護するための条約です。1971年2月、イランのラムサールで開催されたので、地名をとって「ラムサール条約」と呼ばれています。

このラムサールでの会議で採択された内容は、特に水鳥に注目し、その生息地として国際的に重要な湿地及びそこに生息・成育する動植物の保全を進めること、湿地の適性な利用を進めることを目的としており、各締約国がその領域内にある国際的に重要な湿地を指定し保護するとともに、保全促進のために各締約国がとるべき措置、締約国際会議などを定めています。

ラムサール条約の正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、1975年12月に発効されました。条約に加盟した国は、その国が責任を持って守る国際的に重要な湿地を1ヶ所以上指定しなければなりません。

北海道では、釧路湿原、クッチャロ湖、ウトナイ湖が登録されています。

『ほんものの味』

札幌市南区 小林 文男

陽春、緑の芽生え、いよいよ自然とのふれあいが開始です！とはいうものの、今年
は残雪が多く寒い日が続きます。

天気予報も数時間単位で変わって行く、イベントを担当する者にとっては大変頭の
痛いことであります。

ところで、私どもの会で5月15日に実施しました、「鮫島惇一郎先生と花の旅」
の中での話です。

朝8時30分、集合場所の大通りテレビ塔下から見たNHKの温度計が5度を下が
っている、また、雨も降っている。でも、この雨の中みんなマジメに集まりました。

マイクロバス2台に分乗し、目的地樽前山麓の丸山遠見に向けて出発した。

途中支笏湖が見えるところ辺りから太陽サンの顔も見え、観察地に着いた時は雨の
心配がなくなっていた。

そして、ここではいろいろなエンレイソウがようやく開きはじめたところでした。

いよいよ先生の出番です！

北海道でのエンレイソウは9種類あります。先ずタダノエンレイソウ・ミヤマ・オ
オバナの3種がある、といったところで…先生タダノエンレイソウというのもあるん
ですか？…先生・要するに上に何もつかないもの、つまりタダのエンレイソウ…

コジマエンレイソウは、エンレイソウとオオバナノエンレイソウの雑種で…

シラオイエンレイソウ6倍体…ミヤマエンレイソウとオオバナノエンレイソウの雑
種である3倍体シラオイエンレイソウの、染色体倍
加によって生じた複2倍体で…

シラオイエンレイソウ3倍体…ミヤマエンレイソウとオオバナノエンレイソウの種
間雑種で、形態は両親の中間形を示すもので…

ヒダカエンレイソウ…エンレイソウとミヤマエンレイソウの雑種で、形態は中間形
、花卉、雄しべ、ときに雌しべにも多形現象がみられる等…

トカチエンレイソウ…オオバナノエンレイソウとエンレイソウの雑種で、形態は両
者の中間形を示す…

このようなことや、その容姿？の特徴などシンゴクヤサシク・オモシロク解説して
くれました。

参加者のオバサン達から、ヤッパリ専門の先生のハナシハヨクワカル！という声が
聞こえた。…そうかやっぱりこれがほんモノノ味か！と私は思ったのです。

春の森の観察会

— 5月19日(日) 野幌森林公園 大沢口—

札幌市 武田 洋子

暖かくなってきたからでしょうか、半年ぶりに常連さんも顔をみせてくれ、6班に分かれて、大沢口をスタート。一般参加者37名、レンジャー20名、公園事務所2名、総勢59名の観察会になりました。

エゾエンゴサク、ニリンソウなどを見ながら歩きだしてすぐ、コゲラが番いで営巢中なのをフィールドスコープを使い、ゆっくり観察。気の毒な程、花の少ないキタコブシやアカイタヤの緑黄色の花、オオカメノキの清楚な白もスコープで捉えて見てみる。セントウソウ、マムシグサ、ヒトリシズカ、レンブクソウ、オオバナノエンレイソウなど、ひらきはじめてばかりの花々を見ながら大沢園地に向かう途中、エゾリスが倒木の中で無心にヒマワリの種を食べているのに遭遇。親切(?)な方が、置いていってくれた種のようにです。

園地での昼食後は満開のツバメオモトの小群落やハンノキの樹上のエゾフクロウを全員で観察しながらのんびり歩く。

吹き渡る風もこの頃から暖くなる。スタート地点近くに戻って、ニューナイスズメ、アオジを確認し、スコープ大活躍の一日。年配の方や双眼鏡を上手に使いこなせない人達の為にも、もっとスコープを活用した方が良いのではと思います。

「ここの観察会は一人で参加しても、さびしくないからいいですね。」という言葉をかけていただき、ボラレンの人達のさりげない気くぼりや心づかいを評価してもらったものと嬉しく思いました。

芽吹きの方強さ、新緑のみずみずしさ、ウグイスの鳴き声など
春を満喫した一日でした。



8年度の登山観察会の予定

江差町 浅野 正嗣

(檜山支庁 自然保護係)

皆様、元気ですか。

私達の係では7年から月1回の割合で、観察（遊ぶ？）会を開催しています。毎回40人位の方々が、檜山や渡島から参加してくれています。

8年の計画は、前年あまり好評でなかった場所を除いたり、時期が適当でなかった場合は時期を変えたり、町教育委員会や野鳥の会等が開催する観察会と重複しないように、出来る範囲で調整を図って作成しました。

さて開催の中身ですが、あまり格調の高いものではありません。午前9時頃から午後2時頃まで森の中を歩くのですが、一か所に全員を集めて、説明することはほとんどありません。参加者の中には、学校の先生、木材業を営む方、植物の研究者、炭焼を行って森の中で生活していた方、野鳥の会の会員等がいて、これらの方々が自然に講師になって樹木や林床植物そして鳥や獣の説明をしてくれています。

ですから私達の仕事は、みんなが森の中に集まる機会を作ること、ほぼ終了です。

明日は熊石町ヤンカ山の登山観察会の開催日です。ここ一週間で新緑が出そろい、自然の方の準備は整いました。さて私達の準備は？どんな方が来てくれるのでしょうか。

檜山の自然も中々奥深いものがあります。一度遊びに来て下さい。

(平成8年5月25日)

登山観察会の実施予定

実施日	実施場所	テーマ
8. 4. 28	乙部町 竹森山	カタクリの開花
8. 5. 26	熊石町 ヤンカ山	ミズナラとブナの新緑
8. 6. 9	上ノ国町 大千軒岳	高山植物の観察
8. 7. 14	熊石町 冷水岳	夏山を楽しむ
8. 8. 11	瀬棚町 狩場山	高層湿原の観察
8. 9. 8	今金町 カニカン山	ブナ林と金鉱跡の観察
8. 10. 13	今金町 丸山	紅葉を楽しむ
8. 11. 10	江差町 楫川	天然記念物アオトドマツ
8. 12. 8	厚沢部町 清水	マタギの山道
9. 1. 12	厚沢部町 太鼓山	冬の里山
9. 2. 16	厚沢部町 清和	歩くスキー
9. 3. 16	厚沢部町 レクの森	春の気配を探して



乙部町 竹森山での観察会 (1996. 4. 28)

ドングリと恐竜

札幌市 川 端 功 治

ドングリの 寝ん寝んころり ころりかな (一茶)

ドングリはどんな夢を見ているのでしょうか。きっと遠い遙かな古代の事だろうと思います。広々とした草原や、巨木の繁る林の中を、全速力で駆け抜けていく巨大な獣。そうです、恐ろしい顔と、いかつい鎧ぐるみの様な大恐竜の時代です。毎日が食うか食われるかの連続です。NHKスペシャル(これが恐竜だ)で取り上げたのが、最凶悪の名高きティラノサウルスは、やや中型ながら平均身長14m、腰高4m、体重7ト、足の裏の長さ85cm、幅65cmの足でした。なかには、時速60kmのスピードで餌にする草食獣を追いかけていたのも居る筈だと試算する学者もいます。

特にティラノサウルスを取り上げたのは、と永い恐竜の時代が突然終りを告げ最後の恐竜となった「暴れトカゲ」の異名をもち、白亜紀の末期(6500万年前)の花形であったからです。

そして、その巨大な爪や鋭い歯で、草木をなぎ倒して植生攪乱がおこなわれ、土がいたる所で掘り返され(蹄耕)ドングリにとっては、絶好の圃が与えられたこととなります。このようにドングリは地球上の各地に、縄張りを広げたのですが、その頼りとする恐竜が絶滅してしまったのです。絶滅した訳に諸説がありますが、ドングリにとっては子孫を残す方法手立てを考えることが先決です。そして今日、何処にでも見られる繁殖方法に落ちついたのです。

朝日百科「植物の世界」で渡辺定元氏(元東大演習林長)は「恐竜の蹄耕や攪乱に便乗して勢力を拡大したが、今度は動物達に実を食べさせて、その食べ残した芽から発芽する方法や貯食する習慣のある動物達が、食べ忘れるチャンスを狙って発芽する等の捨て身の戦法を思い付いた」と述べています。

菊沢喜八郎氏や中西弘樹氏の観察記録を纏めて見ると、ドングリ(北海道ではミズ

ティラノサウルス



ナラ、コナラ、カシワの堅果)は樹上で熟しますので、育苗する場合は、採り蒔きするか、落果したものは、早急に蒔き付ける事を勧めています。天日に曝し、一週間乾燥させると、発芽能力が失われることとされているからです。

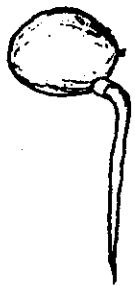
ドングリは落果したら、直ちに発根して一週間以内に根張りを完了させなければなりません。此の作業の為に、栄養分が根の方に移動しますので、不味くなるばかりか、不快味であるアルカロイド、サポニン、タンニン、等の濃度が増して、動物は食べなくなります。運び屋(カケス、ヤマガラ、ゴジュウカラ、シマリス、エゾリス、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、ヒメネズミ)達は大急ぎで夜を徹して運びます。

或る者はたらふく食い溜めし、巣穴に運び込むのを専門とする者、付近の落ち葉を掻き分けて仮埋蔵する者、等正にテンヤワンヤの大騒動となります。

ところで、ネズミ達は腸内にアルカロイド解毒の酵素と、解毒専門の腸内菌を持っているので、何時でもドングリを食べることができます。これではドングリの作戦は裏を掻かれたこととなります。

エゾヤチネズミは巣穴の奥深くにドングリを引き込むので、発芽して成木になる可能性は極めて低いとされています。なお、エゾアカネズミとヒメネズミやシマリスは巣穴貯蔵と地上埋め込みの比率は半々であったとされています。

斎藤新一郎氏の観察によると、埋め込まれたドングリの発芽率は、その深さに依って差がある事を調べています。その深さが3cmが最も良好であって、5cmの場合は悪く、10cmを越えると最悪であったとしています。この様な観察レポートはドングリを植え育てようという方々には多いに参考になりましょう。



無事食害を免れたドングリは一週間以内に根を伸ばし終えて、吸水と個体の保持の態勢を整えます。まるで杭を打ち込んだような直根で、直ちに時間的逃避仮眠(エスケープ仮眠)に入り、真冬の最中に眠りから覚めます。この点が冬眠と違うところです。

ナラ類の幼苗期はいち早く開葉して、必要な空間を独占しようとする作戦と思われていますが、他の植物との縄張り争いに弱い証拠でもありましょう。仮眠という作戦は面白い事を考えだしたものです。春一番に発芽したドングリの木は、ぐんぐん伸びていち早く葉を広げますが、根は意外な仕事をし

なければ成らないのです。それは外生菌根菌と仲良くし栄養の交換をする大切な仕事です。

外生菌根菌はドングリの根に、かき集めた水分と鉱物質ミネラルを供給しますが、それと交換にドングリの木の葉が光合成で作った糖質の栄養を、根を通じて菌根菌にお返しします。此の持ちつ凭れつの関係がなければドングリの木は生きられないのです。中西弘樹氏の観測によれば、カケスは喉袋にドングリを最高12ヶ、平均4ヶをつめこみ、運んだ距離は50mから100mでした。

運んだドングリは下草の散生地に1m間隔で径5mの円状に埋め年込まれ、運び終わると直ぐに掘り返して食べ始めたそうです。北国では秋に発芽しないドングリが多いそうです。春先に見かけるカケスの落ち葉掻きは食べ忘れのドングリ探しか、未発根もの探しか知りたところでは、リス達はドングリを運ぶ時に、当座用と貯食用とに分けますが、多くはドングリの胚軸の根となる部分を噛み切って発根をとめてしまいます。この知恵は何時、何処で身につけたのでしょうか。これもドングリの読みの内とすれば、どちらに軍配をあげるべきか。実の大部分を食べられても、残された芽の部分から発芽した例もあるそうですから。

ドングリの木は何年かに一度、予告無しに大豊作というサービスをします。豊作はその木にとって大変な負担になるらしく、その年の年輪幅は著しく狭くなるといいます。豊作で狂喜乱舞しながら食べかつ運び貯めても、食べ残しが出るのが思う壺なのです。この事について前述の渡辺定元氏は「動物と共存して自己の系統を維持する為のミズナラの、散布者を生かさず殺さずの着果戦略」と解釈しています。

本年2月21日付けの道新に、野生動物に依る農林産物の被害対策として、各省庁合同で練る事にした案の中で、山にドングリの稔る木を植えれば、動物達は野菜を食べにこないだろうとしています。洞爺湖の中島に放った、つがいの鹿が数十頭に増えて、樹木を齧って枯らし大騒ぎした例もあり、自然との付き合い方の難しさを感じます。当時増え過ぎた鹿の貰い手探しやら、不妊手術はどうか、果ては缶詰工場に売却して観光の土産にしては等、凡そ自然愛護の次元からかけ離れた論議まで飛び出す始末でした。

手遅れかも知れませんが、人間が侵している自然界へのニアミスをあらためて検討

すべき時期ではないかと思われます。勿論相手は熊さんからネズミまで、昆虫、樹木、草花等の全ての生き物達との対話を重ねれば、おのずから共存共栄の地域別縄張りが出来ると思います。勿論飛び離れた緑地や園地、校庭等に孤立木であってもドングリの稔る樹があれば、どんなにか楽しい事でしょう。

“ドングリころころ どんぶりこ、お池にはまってさぁ大変…………”

保母の手振りに合わせて、子供達の歌う声は、遠い昔の郷愁をくすぐります。ドングリを知っている子供が少なくなったのは淋しいことです。自然との対話の視点を今一度反省する必要があるようです。

- 参考 植物の繁殖生態学 菊沢喜八郎 蒼樹書房
朝日百科 植物の世界 朝日新聞社
種子は拡がる 中西弘樹 平凡社
北海道主要樹木図譜 宮部金吾他 北大図書刊行部

ドングリ銀行

北海道の代表的な広葉樹であるミズナラは、国内はもとより世界的にも評価されており、森の王様 (King of forest) とも呼ばれています。

この貴重なミズナラをもっと増やそうと、国有林を中心に昭和55年からドングリポケット運動を続けており、平成2年には「ドングリ銀行」が誕生しました。この運動は、北海道の多くの小学校で「ドングリ銀行」の支店を開設し、児童がドングリを拾い「ドングリころころ貯金通帳」に数量を記入して、ドングリ本店に預け入れる活動をしています。

ドングリ銀行 (旭川市永山町10丁目74 林業会館内)



余暇開発センター集中セミナー

ひとはなぜ自然を求めるのか

三田出版会 1995.10.5 発行

定 価 1300円

最近よく「地球にやさしい」「緑の地球船」「自然との共生」……等々の言葉を聞くことがあります。しかし、その言葉には実態が伴わぬ面が多々見うけられます。

「緑を回復しよう」「緑を大事にしよう」という言葉にも異論をはさむ余地はありませんが、一体緑とは何かという根本に立ちかえって考えてみることも大切なことでしょう。

私たちは緑、すなわち森・林、あるいはいろいろな植物が茂っているところを見るとホットします。緑に囲まれていると何とはなく安らぎ、ゆったりとした気持ちになるのは、いわば生物としての本能だと言われています。生態学者の河合雅雄氏は人間はサルから進化してきたから、緑に対する回帰性があると主張しています。

「ひとはなぜ自然を求めるのか」、本著のタイトルは非常に魅力的ですし、内容は余暇開発センターの主催の講演をまとめたものです。

講演の顔ぶれは、文化人類学の山口昌男氏、生態学の河合雅雄氏、惑星科学の松井幸典氏、地球科学の樋口敬二氏、生命科学の中村桂子氏、哲学の中村雄二郎氏です。

この六人の色あいの異なる思想家の自然観をかいまみると、人間の見方、考え方の多様性を知ることができます。と同時にそれらの思想にどことはなく共通の問題意識が感じとれます。

「ひとはなぜ自然をを求めるのか」との問いには、私たち人間が生きていく上での智慧の源泉が自然の中にあるからだ、と、三番目の松井幸典氏は語っています。そしてまた、河合雅雄氏の講演のまとめの中に「人間はいずれ自然に帰っていくものです。必ず死ななければならぬ。小さいときから本当に自然を仲間にして、自然に溶け込んでいくことを覚えていくと、私は自然に帰るということも、また違った次元でとらえることができる」との言葉に深い意味を感じるのです。

北海道ボランティア・レンジャー協議会

第11回定期総会議案書

と き 平成8年4月13日(土) 15時～17時(2時間)

ところ 「かでる2・7」10階 視聴覚室 札幌中央区北2条西7丁目 ☎ 231-4111



第 1 1 回定期総会議事次第

1. 開会のことば
2. 会長あいさつ
3. 来賓あいさつ・紹介
4. 議長選出
5. 議事録署名人の選出
6. 議長就任あいさつ
7. 議事

議案（1）平成7年度事業報告

議案（2）平成7年度決算報告（10周年記念事業特別会計を含む）

議案（3）平成7年度監査報告（10周年記念事業特別会計を含む）

議案（4）平成8年度事業計画案

議案（5）平成8年度事業予算案（10周年記念事業特別会計を含む）

議案（6）協議会10周年記念事業

議案（7）役員改選

新旧役員あいさつ

議案（8）その他

8. 議長退任あいさつ
9. 閉会のことば

議案(1) 平成7年度事業報告

1. 北海道ボランティア・レンジャー協議会第10回定期総会 1回
平成7年4月15日(土)15:00~17:00「かで32・7」出席者 54名 委任状 42名 計 96名
2. 北海道ボランティア・レンジャー協議会役員会 4回
平成7年 5月12日(金)「かで32・7」 15名 平成7年 9月18日(月)「かで32・7」 17名
平成8年 1月19日(金)「かで32・7」 15名 平成8年 4月 5日(金)「かで32・7」 14名
三役会 平成8年3月29日(金)「かで32・7」 4名 その他 平成8年3月12日「ホールスター」 3名
3. 自然観察会 注)野幌森林公園で開催されたすべての自然観察会は、北海道野幌森林公園事務所が協力
「野幌自然観察会」 環境月間協力行事、北海道と共催 平成7年6月4日(日)9:30~12:00 悪天候で中止
「ニセコの自然」 平成7年 6月25日(日)10:00~12:00 89名
「恵庭の自然」 平成7年 7月 9日(日)10:00~12:00 34名
「真駒内の自然」 平成7年8月20日(日)9:30~12:00 45名
「野幌自然観察の集い」平成7年 9月 3日9:30~12:00 82名
「野幌の自然」 平成7年11月19日(日)10:00~12:00 62名
「滝野の自然」 平成8年 2月25日(日)10:00~12:00 18名
4. 会員研修
研修会 平成7年4月15日(土)13:00~14:50「かで32・7」 講師 松野誠也氏、大友 健氏、五十嵐一夫氏
交流会 平成7年6月24日(土)「ニセコの自然」の下見をした後、意見交換など行なった。 14名
5. 会報「エゾマツ」の発行
第33号 平成7年 6月 5日 第34号 平成7年10月 5日
第35号 平成8年 1月20日 第36号 平成8年 3月25日
6. 支部・地方幹事との関係 支部・地方幹事との連絡・交流を図り、一部地方での自然観察会の企画・実施を行なう。
7. その他、事業関連の協力と参加
ア. 北海道野幌森林公園事務所主催「森の観察会」(日)の協力・参加
平成7年 5月21日「春の森の観察会」 平成7年10月22日「秋の森の観察会」 平成8年 3月 3日「冬の森の観察会」
イ. 北海道野幌森林公園事務所主催「森の観察会」(木)の協力・参加
平成7年4月20日、 平成7年8月3日、 平成7年12月7日、 平成8年1月11日、

ウ. 北海道石狩支庁主催の「自然教室」への協力

平成7年 9月 3日 恵庭市ふるさと森林公園

エ. 江別市中央公民館主催「自然観察会」への協力

平成7年 5月23日「春の自然観察会」

平成7年10月25日「秋の自然観察会」

オ. 野幌森林公園クマゲラー斉調査の協力・参加

平成8年 3月10日 参加者9名

カ. 関係機関・団体が行なう研修などの協力・参加

ボランティア・レンジャー育成研修会の後援、フォーレストガイド養成講座、グリーンインストラクター養成研修会、ボランティア・レンジャー実践セミナーなどの参加

議案(2) 平成7年度決算報告(10周年記念事業特別会計を含む)

平成7年度決算報告書

単位:円

収入の部

項目	予算額	実績	差額	摘要
前年度繰越金	97,328	97,328	, 0	
年会費	450,000	444,000	- 6,000	148名
雑収入	10,000	50,860	40,860	寄附その他
合計	557,328	592,188	34,860	

支出の部

項目	予算額	実績	差額	摘要
総務部費	100,000	125,759	- 25,759	会場通信費
研修部費	30,000	3,980	26,020	研修活動
広報部費	240,000	223,013	16,987	印刷通信費
事務局費	50,000	34,516	15,484	通信費その他
活動費	30,000	25,000	5,000	旅費の補助
予備費	37,328	, 0	37,328	

収支残高

項目	収 入	支 出	残 高
実 績	350,310	116,659	233,651

233,651円を次年度への繰越金とする。

議案(3) 平成7年度監査報告(10周年記念事業特別会計も含む)

監査結果について、諸帳簿並びに領収証書などにつき、つぶさに確認・照合しましたが、相違なく正確・適正でありました。

会計担当理事のご苦勞に感謝の意を表し、監査報告とします。

平成8年 4月 5日

監 事 目 黒 孝



監 事 松 野 誠 也



議案(4) 平成8年度事業計画案(平成8年4月1日~平成9年3月31日)

1. 北海道ボランティア・レンジャー協議会第11回定期総会

平成8年4月13日(土) 15:00~17:00 「かでる2・7」 懇談会17:30~19:30

2. 役員会(理事・監事を含む)年4回、三役会は必要に応じ開催する。

3. 自然観察会

「野幌自然観察会」 環境月間協力行事 平成8年 6月 2日(日) 9:30~12:00 下見 平成8年 5月26日(日)

「ニセコの自然」 神仙沼周辺 平成8年 6月30日(日) 10:00~12:00 下見 平成8年 6月29日(土)

「恵庭の自然」 恵庭公園 平成8年 7月14日(日) 9:30~12:00 下見 平成8年 7月 7日(日)

「真駒内の自然」保安林	平成8年 8月11日(日) 9:30~12:00	下見	平成8年 8月 4日(日)
「野幌自然観察の集い」	平成8年 9月 1日(日) 9:30~12:00	下見	平成8年 8月25日(日)
「利根別の自然」	平成8年 9月29日(日) 10:00~12:00	下見	平成8年 9月22日(日)
「野幌の自然」	平成8年11月17日(日) 10:00~12:00	下見	平成8年11月10日(日)
「野幌の冬の森」	平成9年 2月23日(日) 10:00~12:00	下見	平成9年 2月16日(日)
「滝野の森を歩く」滝野すずらん丘陵公園	平成9年 3月 2日(日) 10:00~12:00	下見	平成9年 3月 1日(土)

4. 会員研修

研修会

平成8年 4月13日(日) 13:00~14:50 「森の案内人をめざして」講師 浅野正嗣氏、「江別のホタル」講師 西脇昭夫氏
自然観察会の下見 上記3の自然観察会下見を会員研修の場とする。

交流会

平成8年 6月29日(土)「ニセコの自然」の前夜、ニセコで交流会を開催する。

5. 会報「エゾマツ」の発行 (年4回(6月・9月・12月・3月に第37号~第40号を発行する))

6. 支部・地方幹事との連携

支部・地方幹事との密接な情報交換のもとに、地方での自然観察会や交流会の企画・実施を図る。

7. その他、事業関連の協力と参加

ア. 北海道野幌森林公園事務所主催「森の観察会」(日)の協力・参加

春の森の観察会	平成8年 5月19日(日) 9:30~14:00	下見	平成8年 5月12日(日)
秋の森の観察会	平成8年10月20日(日) 9:30~14:00	下見	平成8年10月13日(日)
冬の森の観察会	平成9年 3月23日(日) 9:30~14:00	下見	平成9年 3月16日(日)

イ. 北海道野幌森林公園事務所主催「森の観察会」(木)の協力・参加

4月の森の観察会	平成8年 4月18日(木) 10:00~12:00	下見	平成8年 4月16日(火)
7月の森の観察会	平成8年 7月18日(木) 10:00~12:00	下見	平成8年 7月16日(火)
8月の森の観察会	平成8年 8月 1日(木) 10:00~12:00	下見	平成8年 7月30日(火)
12月の森の観察会	平成8年12月 5日(木) 10:00~12:00	下見	平成8年12月 3日(火)
1月の森の観察会	平成9年 1月 9日(木) 10:00~12:00	下見	平成9年 1月 7日(火)

ウ. その他、関係機関・団体が行なう自然観察会への協力・参加
 石狩支庁主催の「自然教室」平成8年7月14日(日)を予定。
 江別市中央公民館主催の「自然観察会」春・秋の2回
 その他

エ. 各関係機関・団体が行なう自然保護・保全に係わる調査の協力・参加

オ. 各関係機関・団体が行なう研修などに係わる協力・参加

カ. その他ボランティア活動に係わる協力・参加

議案(5) 平成8年度事業予算案(10周年記念事業特別会計を含む)

平成8年度事業予算書

単位:円

収入の部

項目	予算額	摘要
前年度繰越金	109,920	
年会費	450,000	150名×3000円
雑収入	10,000	
合計	569,920	

支出の部

項目	予算額	摘要
総務部費	130,000	会場借上げ、事務費、通信費
研修部費	30,000	研修活動費、通信費
広報部費	240,000	会報印刷製本費、通信費
事務局費	50,000	事務費、通信費

活 動 費	30,000	支部・地方幹事との連絡調整費
予 備 費	19,920	
特 別 会 計	70,000	10周年記念事業
合 計	569,920	

10周年記念事業特別会計

単位：円

収入の部

項 目	予 算 額	摘 要
前年度繰越金	233,651	
特 別 会 計	70,000	
贈 金	30,000	1,000円×30名=30,000円
雑 収 入	0	
合 計	333,651	

支出の部

項 目	予 算 額	摘 要
編集・印刷製本費	283,651	セルフガイドブック1000部印刷製本費
写真撮影費	50,000	フィルム、現像代
合 計	333,651	

議案（６） 協議会10周年記念事業

「エソマツ」10周年記念誌の発行

「SELF GUIDE BOOK」の発行

釀金

議案（７） 役員改選

議案（８） その他

備品の活用について

平成8年度北海道ボランティア・レンジャー協議会役員

平成8年5月10日現在

役職名	氏名	郵便番号と住所	電話番号
会長	大友 健	064 札幌市中央区宮の森2条13丁目9-30	011-621-6054
副会長	川端 功治	063 札幌市西区西野8条9丁目5-1	011-662-5548
副会長	佐々木 幸夫	003 札幌市白石区川下5条2丁目4-32	011-875-6602
事務局長	佐々木 幸夫	"	"
総務部部長	佐藤 健一	061 札幌市南区藤野4条7丁目277-74	011-592-4222
総務部部員	小 湊 修子	044 札幌市厚別区厚別中央2条4丁目15 2-1203	011-893-6309
"	樋口 達郎	004 札幌市厚別区厚別中央4条4丁目6 1-404	011-892-2096
"	大槻 日出男	004 札幌市厚別区厚別東4条8丁目8-1	011-898-3429
"	武田 洋子	063 札幌市西区西野4条8丁目12-16	011-661-4989
研修部部長	瀧谷 尚弘	005 札幌市南区北ノ沢1897番地71	011-572-9717
研修部部員	五十嵐 一夫	061-02 石狩郡当別町西町28-12	01332-3-0604
"	田中 利男	001 札幌市北区新琴似6条4丁目3-13	011-761-3065
"	小林 英世	061-13 恵庭市恵の野東5丁目3-1	0123-36-3944
"	須賀 盛典	069 江別市大麻新町15-1	011-386-0425
"	今野 義也	062 札幌市豊平区真栄1条1丁目8 1-1015	011-882-8392
"	伊藤 秀平	065 札幌市東区北30条東9丁目1-10	011-752-3574
"	近久 喜枝	004 札幌市厚別区厚別北3条5丁目1 2-303	011-896-4276

役 職 名	氏 名	郵 便 番 号 と 住 所	電 話 番 号
広報部部长	田 村 允 郁	065 札幌市東区東苗穂11条2丁目897-2	011-791-0127
広報部部員	香 島 由美子	003 札幌市白石区本郷通13丁目南2-24	011-865-8928
"	三 崎 篤	002 札幌市北区太平10条7丁目5-8	011-772-0563
"	藤 田 正 次	063 札幌市西区福井1丁目10-56	011-667-2838
"	菊 池 秀 樹	065 札幌市東区東苗穂8条1丁目690-84	011-791-5815
"	稲 葉 孝 徳	001 札幌市北区北20条西8丁目18	011-736-2528
監 事	目 黒 孝	060 札幌市北区糠路1条8丁目6-17	011-772-6405
"	我 妻 庄 三	061-11札幌市広島町朝日町4-2-5	011-373-8773

観察会研修会 情報

自然観察会「ニセコの自然」

私たちの住んでいる北海道、そしてニセコ地域は、豊かで優れた自然に恵まれており、ここには沢山の植物や動物などを見ることができます。

このような自然は、掛け替えのない財産ですから、私たちはこれを守り、次代に引き継いでいかなければなりません。

新緑溢れる神仙沼自然休養林で、自然観察会を行ないます。自然に親しみながら、その素晴らしい自然を見直してみませんか。

ご案内は、ボランティア・レンジャー（自然解説員）が行ないますので、普段目にしても分からない動・植物などの名前や自然の仕組みなどを楽しみながら、初夏の一時、「環境月間」に因んで身近な環境保護・保全も、自然観察を通じて考えてみましょう。

- (主 催) 北海道ボランティア・レンジャー協議会
 (日 時) 平成8年6月30日(日) 午前10:00~12:00
 (集 合 場 所) 共和町神仙沼休憩所駐車場に、午前10時までに集合してください。
 (観 察 コー ス) 神仙沼休憩所駐車場を午前10時10分に出発し、神仙沼湿原約1.7kmを周遊して、神仙沼休憩所駐車場で12時に解散するコースです。
 (案 内 者) 北海道ボランティア・レンジャー協議会会員(自然解説員)
 (そ の 他)
 ◇ この自然観察会「ニセコの自然」は、どなたでも自由に参加でき、参加費・事前の申し込みなどは不要で、当日集合場所で受付をします。
 ◇ 雨具をご用意ください(小雨決行です)。

— 問い合わせ先 —

北海道ボランティア・レンジャー協議会事務局(佐々木幸夫方)

〒003 札幌市白石区川下5条2丁目4-32 ☎ 011-875-6602

現地責任者 池田 郁 郎 〒048-14 釧路市ニセコ町ニセコ482 ☎ 0136-58-2623

平成8年度に主催・共催する北海道ボランティア・レンジャー協議会 の自然観察会一覧

- *環境月間協力行事（北海道と共催） 「野幌自然観察会」 野幌森林公園
平成8年 6月 2日（日） 9:30~12:00 下見 平成8年 5月26日（日）
集合場所 野幌森林公園「森の自然教室」前

- *「ニセコの自然」 神仙沼周辺
平成8年 6月30日（日） 10:00~12:00 下見 平成8年 6月29日（土）
集合場所 共和町神仙沼休憩所駐車場

- *「恵庭の自然」 恵庭公園
平成8年 7月14日（日） 9:30~12:00 下見 平成8年 7月7日（日）
集合場所 恵庭市恵庭公園駐車場

- *「真駒内の自然」 真駒内保安林
平成8年 8月11日（日） 9:30~12:00 下見 平成8年 8月4日（日）
集合場所 札幌市南区地下鉄真駒内駅前

- *「野幌自然観察の集い」 野幌森林公園
平成8年 9月 1日（日） 9:30~12:00 下見 平成8年 8月25日（日）
集合場所 野幌森林公園「森の自然教室」前

- *「利根別の自然」岩見沢市利根別自然休養林
平成8年 9月22日（日） 10:00~12:00 下見 平成8年 9月22日（日）
集合場所 岩見沢市利根別自然休養林駐車場

- *「野幌の自然」 野幌森林公園
平成8年11月17日（日） 10:00~12:00 下見 平成8年11月10日（日）
集合場所 野幌森林公園内北海道開拓記念館前

- *「野幌の冬の森」 野幌森林公園
平成9年 2月23日（日） 10:00~12:00 下見 平成9年 2月16日（日）
集合場所 野幌森林公園内北海道開拓記念館前

- *「滝野の森を歩く」 滝野すずらん丘陵公園
平成9年 3月 2日（日） 10:00~12:00 下見 平成9年 2月16日（日）
集合場所 札幌市南区 滝野すずらん丘陵公園溪流口駐車場

平成8年度北海道野幌森林公園事務所主催で

北海道ボランティア・レンジャー協議会が協力する自然観察会

(野幌森林公園で実施)

- | | | |
|----------------------------|--|-------------|
| * 4月の森の観察会
集合場所 | 平成8年 4月18日(木) 10:00~12:00
北海道開拓記念館前 | 下見 4月16日(火) |
| * 春の森の観察会
集合場所 | 平成8年 5月19日(日) 9:30~14:00
野幌森林公園大沢口 | 下見 5月12日(日) |
| * 7月の森の観察会
集合場所 | 平成8年 7月18日(木) 10:00~12:00
北海道開拓記念館前 | 下見 7月16日(火) |
| * 8月の森の観察会
集合場所 | 平成8年 8月 1日(木) 10:00~12:00
北海道開拓記念館前 | 下見 7月30日(火) |
| * 秋の森の観察会
集合場所 | 平成8年10月20日(日) 9:30~14:00
野幌森林公園大沢口 | 下見10月13日(日) |
| * 12月の森の観察会
集合場所 | 平成8年12月 5日(木) 10:00~12:00
北海道開拓記念館前 | 下見12月 3日(火) |
| * 1月の森の観察会
集合場所 | 平成9年 1月 9日(木) 10:00~12:00
北海道開拓記念館前 | 下見 1月 7日(火) |
| * 冬の森の観察会
集合場所 | 平成9年 3月23日(日) 9:30~14:00
野幌森林公園大沢口 | 下見 3月16日(日) |

問い合わせ先

北海道森林公園事務所公園管理部公園利用課
〒004 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 ☎(011)898-0455

平成8年度 ボランティア・レンジャー育成研修会

ボランティア・レンジャーとしての知識技能を向上させたり、仲間を増やすための研修会です。知人・友人にPRしてください。

1 研修会の目的

北海道の恵まれた自然環境を将来にわたって保全し、次の世代に引き継いでいくためには、自然の素晴らしさを体験し、自然のしくみやその働きについて理解することを通して、自然保護思想の高揚をより一層図ることが大切です。

そのためには、人と自然との橋渡し役をするボランティア・レンジャー（自然解説員）の活動が重要となることから、本研修会は、自然保護の基礎的知識の習得や自然解説の実践を体験し、各地の自然観察会等において住民相互が自然への理解を深めあうことにお手伝いいただくボランティアを育成しようとするものです。

2 主催者

北海道（保健環境部環境室自然保護課）

3 後援

環境庁自然保護局西北海道地区国立公園・野生生物事務所
月形町
北海道ボランティア・レンジャー協議会

4 実施場所及び期間

開催月日	実施場所
平成8年7月19日(金) ～21日(日)	樺戸郡月形町 緑公園内工房 (空知支庁管内)

5 対象者

満18歳以上の健康な方で、自然に興味を持ち、今後、各種の自然観察会や探鳥会等において、ボランティア活動を行っていただける方。

6 募集人員

30名程度

7 講師

北海道開拓記念館、北海道環境科学研究センター、北海道立林業試験場、(財)日本野鳥の会及び北海道ボランティア・レンジャー協議会から、各専門分野の講師を予定しています。

8 研修内容

- (1) 北海道の自然のなりたちやその変遷の歴史等基礎知識を習得する。
- (2) 自然観察会等の方法や技術について研修する。
- (3) 自然観察や探鳥会等を実際に体験する。

9 受講申込み方法

受講を希望する方は、往復はがきに住所、氏名（フリガナ）、年齢、職業、性別、郵便番号、電話番号、喫煙の有無及び研修場所までの交通手段を明記し、お申し込みください。

なお、1葉につき1名でお願いします。

(申し込み先)

060 札幌市中央区北3条西6丁目
北海道保健環境部環境室自然保護課保全係
☎ 011-231-4111(内線 25-571)

10 申込み期限

平成8年7月1日まで（当日消印有効）

11 受講者の決定

受講者の決定は締め切り後速やかに行い、申込者に通知します。

なお、受講希望者が募集人員を越えた場合は抽選等により受講者を決定します。



森林とみどりの技術者養成セミナー

フォレストガイド養成講座（2）

日 時 平成8年9月17日～20日 4日間

場 所 美唄市光珠内町東山 北海道立林業試験場

問い合わせ先 北海道立林業試験場専門技術員室 ☎ 01266-3-4164

◎◎◎◎◎ 編集後記 ◎◎◎◎◎

天候不順の5月でしたが、カッコウが啼きはじめ、木々の若葉が出そろっている森の中は、日頃のストレスを吹き飛ばしてくれます。札幌ではライラック祭りも始まり各家の庭にはいろいろな種類のツツジが咲き誇っています。

平成8年度の活動の始まりと共に、広報部も新しいスタッフで、広報誌作成の作業に取り組み、37号が出来上がりました。

会員ひとり一人の声をくみあげることが、広報誌「エゾマツ」の役割だと考えています。皆様の声を反映できる紙面作りに努力を続けてまいりたいと思います。どうかさまざまな情報をお寄せください。

北海道ボランティア・レンジャー協議会

会報誌「エゾマツ」37号 1996.6.10 発行

発行責任者 大友 健

(表紙題字 岡田 弘保 元生活環境部長)